



號 四 十 五 第
月 三 年 七 十 和 昭
行 發 日 十
行 發 日 十 回 一 月 每
錢 五 金 部 一 價 定 誌 本
錢 十 六 金 (共 稅) 年 一
一 才 田 杉 編 兼 行 發
人 影 印 輯
國 公 谷 比 日 區 町 豐 中 京 東
社 信 通 盟 同 所 行 發

報道報國の使命完遂

皇軍將兵の殉國精神に感謝

社長 古野伊之助

難攻不略

を誇つたシンガポールも遂に陥落しました。大英帝國が東亞侵略の牙城と恃んだシンガポールも遂に陥ちたのです。願れば十二月八日、對米英宣戰の大詔を拜して僅かに二月餘に過ぎない今日、わが忠勇無雙の皇軍將兵は陸に、海に、空に勇戦奮闘を續けて、ほとんど地球の半分、東亞の東の半球全面にわたり、前古未有の大作戦を着々執行して、アメリカ、イギリス、蘭印の海軍主力を粉砕すると同時に、香港、マニラ、シンガポールとあらゆる英米の東亞における據點を覆滅して、この短時間の間に會つて人類の記録にも、世界の歴史にも見ない大戦果を収め得たといふことは、これは眞實であるといふことを振り返つてみたならば、夢が現實になつたと考へるよりほかに驚くべき事實であると思へる。靜かに十二月八日以前の日本國民の心理状態を時々は振り返つて考へてみて戴きたいと思ふ。至く十二月八日

一億の國民一人々々の胸はたゞ感激と感謝の念に満たされるのみであります。もう今日の日本、今日の日本國民は單に東亞の盟主、東亞の安定勢力にはあらずして、全世界の新秩序建設の指導者であり、世界人類の安定勢力であると思ふのであります。かくのごとき驚くべき飛躍、驚くべき躍進はどうして實現したことであらうか。われらの骨肉同胞が眞に君國のため、すべてを捧げて勇戦奮闘した賜であります。

今日第一次戦捷の祝賀大會 津々浦々にわたつて行はれ一億の國民は感謝と感激の念に胸躍らせつゝ、この前古未曾有の戦捷を祝福してゐる。その陰には、諸君の家族の内にも諸君の親戚の仲間にも、近隣の人々の内にも前線に出て、只管君國のために生命を捧げてゐる勇士の

あることを考へなければならぬ。世界廣しといへども、本當に國家のために、君のため、國のために一切の己を忘れてすべての自己を捧げつゝ民族が、わが國以外のどこにありますが。この日本精神こそ、今日の曠古の大捷を博し得たものと考へられるのであります。或は裝備、或は軍艦の數、飛行機の數、兵力の量などを考へてみたときに、これが米英に比して非常に優勢であるといひ得る何物があつたでありませうか。一死殉國の大精神こそ、あらゆる困難を突破し、あらゆる不可能を可能ならしめて、今日の大戦果を収め得たと思ふのであります。われわれが、かうして統後に留つて、それぞれの

職分に安んじ 得ること、もまたわれわれ今日の全世界にわたつて展開されつゝある世界的思想戦に對し前線の戦況を逸早く世界全土に徹底普及して、皇國日本の進路を明示すると同時に、東亞の建設に邁進する帝國の眞意を本當に諒解せしめる、その役廻りは日本中においてわが同盟以外に斷じてないのであります。單に一千萬の新開闢者を通じて、六百萬のラジオ聴取者を通じて、日本國民に戦争の狀況を傳へるのみならず、或はドイツ、イタリアさらに敵國米英の諸國の代表的通信社を通じて激烈なる國際的宣傳戦、思想戦、報道戦に闘ふわれわれは報道第一線の戰士であるといふことを十分銘記して戴きたい。徒らに戦捷の歡びにひたつてゐるときではない。この將兵の目覺し働きを考へるときに、各々の職域において、われわれの職分においてなすべきことのますます重且つ大なることを考へなければならぬと思ふのであります。

戰捷第一次祝賀式執行
同盟通信社本社では二月十八日午前九時より編輯室に總員參集、左記次第の通り戦捷第一次祝賀式を執行した。

次 第
一、開會 午前九時
一、宮城遙拜
一、出征將兵の武運長久並に戦捷將兵の英靈に感謝黙禱
一、國歌斉唱
一、詔書捧讀
一、皇軍への感謝電報朗讀(別項三通)
一、社長挨拶
一、聖壽萬歲奉唱並に皇軍萬歲三

御稜威の下閣下並に將兵各位の神謀勇戦の賜にして一億國民の感激之に過ぐるものなし。茲に謹んで祝意を表す。われらまた内に民心を鼓舞激勵し外に國威を宣明發揚し以て報道報國の使命に挺身邁進せんことを誓ふ。
同盟通信社長 古野伊之助

難攻不略
を誇つたシンガポールも遂に陥落しました。大英帝國が東亞侵略の牙城と恃んだシンガポールも遂に陥ちたのです。願れば十二月八日、對米英宣戰の大詔を拜して僅かに二月餘に過ぎない今日、わが忠勇無雙の皇軍將兵は陸に、海に、空に勇戦奮闘を續けて、ほとんど地球の半分、東亞の東の半球全面にわたり、前古未有の大作戦を着々執行して、アメリカ、イギリス、蘭印の海軍主力を粉砕すると同時に、香港、マニラ、シンガポールとあらゆる英米の東亞における據點を覆滅して、この短時間の間に會つて人類の記録にも、世界の歴史にも見ない大戦果を収め得たといふことは、これは眞實であるといふことを振り返つてみたならば、夢が現實になつたと考へるよりほかに驚くべき事實であると思へる。靜かに十二月八日以前の日本國民の心理状態を時々は振り返つて考へてみて戴きたいと思ふ。至く十二月八日

職分に安んじ 得ること、もまたわれわれ今日の全世界にわたつて展開されつゝある世界的思想戦に對し前線の戦況を逸早く世界全土に徹底普及して、皇國日本の進路を明示すると同時に、東亞の建設に邁進する帝國の眞意を本當に諒解せしめる、その役廻りは日本中においてわが同盟以外に斷じてないのであります。單に一千萬の新開闢者を通じて、六百萬のラジオ聴取者を通じて、日本國民に戦争の狀況を傳へるのみならず、或はドイツ、イタリアさらに敵國米英の諸國の代表的通信社を通じて激烈なる國際的宣傳戦、思想戦、報道戦に闘ふわれわれは報道第一線の戰士であるといふことを十分銘記して戴きたい。徒らに戦捷の歡びにひたつてゐるときではない。この將兵の目覺し働きを考へるときに、各々の職域において、われわれの職分においてなすべきことのますます重且つ大なることを考へなければならぬと思ふのであります。

戰捷第一次祝賀式執行
同盟通信社本社では二月十八日午前九時より編輯室に總員參集、左記次第の通り戦捷第一次祝賀式を執行した。

次 第
一、開會 午前九時
一、宮城遙拜
一、出征將兵の武運長久並に戦捷將兵の英靈に感謝黙禱
一、國歌斉唱
一、詔書捧讀
一、皇軍への感謝電報朗讀(別項三通)
一、社長挨拶
一、聖壽萬歲奉唱並に皇軍萬歲三

御稜威の下閣下並に將兵各位の神謀勇戦の賜にして一億國民の感激之に過ぐるものなし。茲に謹んで祝意を表す。われらまた内に民心を鼓舞激勵し外に國威を宣明發揚し以て報道報國の使命に挺身邁進せんことを誓ふ。
同盟通信社長 古野伊之助

難攻不略
を誇つたシンガポールも遂に陥落しました。大英帝國が東亞侵略の牙城と恃んだシンガポールも遂に陥ちたのです。願れば十二月八日、對米英宣戰の大詔を拜して僅かに二月餘に過ぎない今日、わが忠勇無雙の皇軍將兵は陸に、海に、空に勇戦奮闘を續けて、ほとんど地球の半分、東亞の東の半球全面にわたり、前古未有の大作戦を着々執行して、アメリカ、イギリス、蘭印の海軍主力を粉砕すると同時に、香港、マニラ、シンガポールとあらゆる英米の東亞における據點を覆滅して、この短時間の間に會つて人類の記録にも、世界の歴史にも見ない大戦果を収め得たといふことは、これは眞實であるといふことを振り返つてみたならば、夢が現實になつたと考へるよりほかに驚くべき事實であると思へる。靜かに十二月八日以前の日本國民の心理状態を時々は振り返つて考へてみて戴きたいと思ふ。至く十二月八日

職分に安んじ 得ること、もまたわれわれ今日の全世界にわたつて展開されつゝある世界的思想戦に對し前線の戦況を逸早く世界全土に徹底普及して、皇國日本の進路を明示すると同時に、東亞の建設に邁進する帝國の眞意を本當に諒解せしめる、その役廻りは日本中においてわが同盟以外に斷じてないのであります。單に一千萬の新開闢者を通じて、六百萬のラジオ聴取者を通じて、日本國民に戦争の狀況を傳へるのみならず、或はドイツ、イタリアさらに敵國米英の諸國の代表的通信社を通じて激烈なる國際的宣傳戦、思想戦、報道戦に闘ふわれわれは報道第一線の戰士であるといふことを十分銘記して戴きたい。徒らに戦捷の歡びにひたつてゐるときではない。この將兵の目覺し働きを考へるときに、各々の職域において、われわれの職分においてなすべきことのますます重且つ大なることを考へなければならぬと思ふのであります。

戰捷第一次祝賀式執行
同盟通信社本社では二月十八日午前九時より編輯室に總員參集、左記次第の通り戦捷第一次祝賀式を執行した。

次 第
一、開會 午前九時
一、宮城遙拜
一、出征將兵の武運長久並に戦捷將兵の英靈に感謝黙禱
一、國歌斉唱
一、詔書捧讀
一、皇軍への感謝電報朗讀(別項三通)
一、社長挨拶
一、聖壽萬歲奉唱並に皇軍萬歲三

御稜威の下閣下並に將兵各位の神謀勇戦の賜にして一億國民の感激之に過ぐるものなし。茲に謹んで祝意を表す。われらまた内に民心を鼓舞激勵し外に國威を宣明發揚し以て報道報國の使命に挺身邁進せんことを誓ふ。
同盟通信社長 古野伊之助

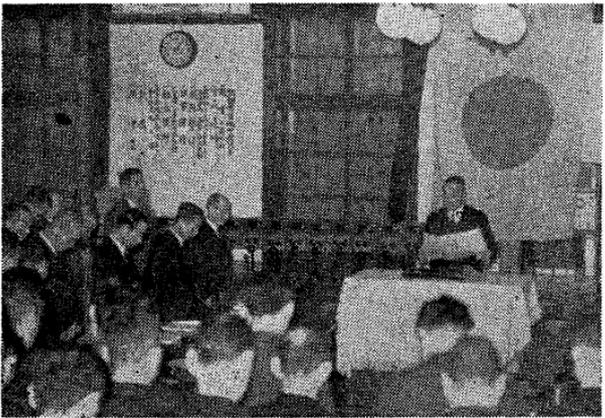
難攻不略
を誇つたシンガポールも遂に陥落しました。大英帝國が東亞侵略の牙城と恃んだシンガポールも遂に陥ちたのです。願れば十二月八日、對米英宣戰の大詔を拜して僅かに二月餘に過ぎない今日、わが忠勇無雙の皇軍將兵は陸に、海に、空に勇戦奮闘を續けて、ほとんど地球の半分、東亞の東の半球全面にわたり、前古未有の大作戦を着々執行して、アメリカ、イギリス、蘭印の海軍主力を粉砕すると同時に、香港、マニラ、シンガポールとあらゆる英米の東亞における據點を覆滅して、この短時間の間に會つて人類の記録にも、世界の歴史にも見ない大戦果を収め得たといふことは、これは眞實であるといふことを振り返つてみたならば、夢が現實になつたと考へるよりほかに驚くべき事實であると思へる。靜かに十二月八日以前の日本國民の心理状態を時々は振り返つて考へてみて戴きたいと思ふ。至く十二月八日

職分に安んじ 得ること、もまたわれわれ今日の全世界にわたつて展開されつゝある世界的思想戦に對し前線の戦況を逸早く世界全土に徹底普及して、皇國日本の進路を明示すると同時に、東亞の建設に邁進する帝國の眞意を本當に諒解せしめる、その役廻りは日本中においてわが同盟以外に斷じてないのであります。單に一千萬の新開闢者を通じて、六百萬のラジオ聴取者を通じて、日本國民に戦争の狀況を傳へるのみならず、或はドイツ、イタリアさらに敵國米英の諸國の代表的通信社を通じて激烈なる國際的宣傳戦、思想戦、報道戦に闘ふわれわれは報道第一線の戰士であるといふことを十分銘記して戴きたい。徒らに戦捷の歡びにひたつてゐるときではない。この將兵の目覺し働きを考へるときに、各々の職域において、われわれの職分においてなすべきことのますます重且つ大なることを考へなければならぬと思ふのであります。

戰捷第一次祝賀式執行
同盟通信社本社では二月十八日午前九時より編輯室に總員參集、左記次第の通り戦捷第一次祝賀式を執行した。

次 第
一、開會 午前九時
一、宮城遙拜
一、出征將兵の武運長久並に戦捷將兵の英靈に感謝黙禱
一、國歌斉唱
一、詔書捧讀
一、皇軍への感謝電報朗讀(別項三通)
一、社長挨拶
一、聖壽萬歲奉唱並に皇軍萬歲三

御稜威の下閣下並に將兵各位の神謀勇戦の賜にして一億國民の感激之に過ぐるものなし。茲に謹んで祝意を表す。われらまた内に民心を鼓舞激勵し外に國威を宣明發揚し以て報道報國の使命に挺身邁進せんことを誓ふ。
同盟通信社長 古野伊之助



(長社野古と部一の場式賀祝捷戦)

# 上海はどうなるか

## 戦争段階は半日で経過

### 敵性國人の脱殻化す

#### 中支總局長 松方義三郎

上海の十二月八日

考へて見ると四年振りの砲聲が上海を震動したのも無理はない。勝負は瞬時にして終つて、重油が河の上で旺んに燃えた。時節柄沈んだ船もさること乍ら、燃えた油が惜しいと思つた。

夜が明けて見ると黄浦江の中流には日本の軍艦旗を上げたウエーキが只一つ浮んでゐる。ペテルは跡方もなく、赤い警留ブイだけが昨日の儘だ。

ウエーキにはウエーキが何十打あつたとか、見て来たやうな話をする人もあつた。嘘か本當か知らない。併し、掌の上に乗るやうな、あんな砲艦でもトキーの映寫機が備へつけてあつたことは事實である。

日本軍の進駐はなんの抵抗もなく、十一時半頃には各部隊が豫定の地點に配備を終つた。

四年有半、まるで腫れものにさはるやうにして来たその租界に日本の陸海軍がトラックを列べ、國旗を掲げて乗込むといふやうなことは何といふ變化だらう。「プロマン」の屋根の上から蘇州河を超えて行く進駐部隊を見送り乍ら、僕は、何んといふ素晴らしい御時世になつたものだらうと考へた。あの南京路事件で新雅茶館に頭張つた仲間などが、この光景を見たら涙をこぼすだらうと思つたのである。

敵性國や重慶の重ねの限に餘る策動の根據地がかうやつて崩

壊した。この大きな歴史的の切替へを素早く圓滑にやつてのけることにより、敵性策動の餘地を興へないといふ、日本側の計畫は十二分に成功したと見てよい。

十二月八日を契機として上海租界の中國人の對日感情には顯著な變化が起りつゝある。そして、それはこの切替へが白晝堂々と而も靜肅に行はれたことが大いに與つて力がある。米英の權益に便乗することが生命財産保全の唯一の途と考へてゐた上海人にとつて日本の國旗の下に、彼等が、依然として安居し得るとの發見は大きな、全く意外な啓示だつたのである。

### 敵國人の脱殻

日本側は上海を丸ごと楯の中に入れ、いはゞ一つの捕虜收容所にしたといふ考へ方であつた。したがつて官吏、軍人は別だが、普通の米英人は八日以後も町をうろつき、仕事のある者は事務所に通つてゐる。何千人の敵國籍人を一ヶ所に收容し、これに飯を食はす算段をするよりはこの方が手がかからないのである。本國との交通を斷たれ、自分達の活動の本據を封印され、乃至は嚴重な監督下におかれた今日の彼等は、十二月八日以前の彼等の脱殻ではかない。

南京路にもバンドにもこの種の脱殻が歩いてゐる。永年の習慣で一寸廢せないであらう。白い頭の老人がパーベリーを着て黄昏の街を散歩してゐる有様などは痛々

しい限りだ。工部局や海關は敵國人に對する年金の仕拂を停止してしまつたから、こんな老人連の被害者は相當あるに相異ない。彼等がワシントン無能を叫び、ルーズヴェルトを恨むのも無理はない。

戦争ニュースでも東亞關係のものには眼をくれず、専らアフリカやヨーロッパのものを採してゐるのだと話した脱殻もある。ハワ、マレー海戦に引續く敗戦の報に東亞での戦争を投げつけたのである。

### 生體實驗過程の上海

米英國籍人百人の内本國生れの者は十人はおろか五人も怪しい。一等品は先刻本國へ退散してゐるからだ。本國の社會と縁が切れたこの所謂「上海レンダ」が本國の政策の犠牲となつてゐるのも悲惨な話だが、その彼等が、東亞の戦局に希望を全く失ひ、せめて地球の裏側の戦争ニュースの内に何等かの光明を見出そうと努力してゐる姿は一層悲惨だ。

『上海には物があるだらう』滯京一ヶ月の間に色々の人から同じ質問を受けた。米は知らない。しかし肉も鶏も卵も野菜も金次第。蓋し、上海には物があつたであらう。たゞ何がどれ程あるか、又はなにかについては、誰も實はよく識らないのではないかと思ふ。日本側當局も工部局も主要物資の調査を急いでゐるから、近い内に多少全般的の状況を知ることが出来ると思ふ。併し、何といつても今日までの上海は謂はゞ人間の造つた老大なジャングルで、斧の入つた所は極めて限られた部分に過ぎないから、一目瞭然と全貌を明かにすることは決して容易ではあるまい。寧ろ、上海市民の生活がどんな風に困窮し、戸惑ひするであら

うか、或は又反對にどんな所に思はぬ弾性を發揮し、潜在力を出すであらうか——轉換の過程に現れる、こんな色々な現象を通して、初めて、上海なる複雑な有機體の生理なり病理なりが判つて來るのであらう。

この意味からすれば、上海今後數ヶ月の變換こそは天下の見物であり、苟くも支那に關心を持つ人々の見逃すべからざる事柄でなければならぬ。正に千載一遇の生體實驗なのである。

上海では南方熱が旺んだ。マレー語の講習會なども盛況を極めてゐる。邦家のため大慶の至りだ。

たゞ上海では先き／＼面白くなさそうだから、この際南で一旗上げたいといふのも相當ある。支那のことは色々やつて見たが判らぬから南方研究と看板を塗り替へたものもある。よく／＼見ると可なり心細い南方派があるのである。こんなのが南へ流れ行つては南でも

### 前線だより

速記術と兵隊  
中支那派遣軍第六八〇九部隊林部隊  
新保正三  
大變御無沙汰し、誠に申譯ございません。その後お便りする機会に恵まれます、心ならずも今日まで失禮致しをりました。大東亞戰の勃發で報道戦線の多忙振りもさぞかしと察せられます。自分も大戰勃發以來早速ニュース係を命ぜられて、毎日東京のラジオ・ニュースをとり、ガリ版ながら陣中新聞を發行してゐます。  
新聞の到着を待つてゐたのでは半月も、一ヶ月も遅れるので、早速自分の速記が活用されたいわけ

迷惑するだらう。四年半も大陸の飯を食つて、その大陸も上滑りした程度では、南に行つて果して何が出来るか、大いに問題だと思ふのである。

上海と大東亞の經營  
上海は、恐らく、大いに變るだらう。何はともあれ投機業者の樂天地としての上海とは永久にお別れた。都會としての大きさが違ふから程度は違ふにしても、上海が多少とも會つてのハルピンの途を歩むであらうことは争はれない。

何れにしても當座の上海の運命はデリ貧以外にはない。萬事は大東亞戰が完遂された後か、或は、或る程度一段落して、南からの物が上海に流れ込んで來る曉の話であらう。  
米英を追い出して見て今更ら痛感することは、十二月八日までの上海が驚くべく米英的存在であつたことだ。敵性排除の後に残され

### 北邊の鎮護固し

その意味で自分等の陣中ニュースもガリ版刷りの貧弱なものながらそこに大きな意義と使命を持つてゐるものと確信してゐます。  
滿洲七六二部隊中隊  
安達三郎  
ハワイ海戦の大勝、マレー作戦の完遂等皇軍の驚異的戰果は共榮國の確立を不動のものたらしめ、われわれはもとより統後の慶び、安堵感謝發奮の程が拜祭いたされまふ。北門守護のわれわれも第一次慶祝日たる十八日御酒を頂戴して慶祝し、戦争完遂の誓を新にいたしました。大東亞戰爭の性格が資源作戦から國防安全確保への作戦を包含し來り、北門鎮護のわれわれも、前進の光榮を拜する日は一死奉公、君國に殉ずべく待期してゐます。

た大きな空虚——經濟的、社會的の——には何人も目を蔽ふことが出来ない。而も米英がもとの姿をもつて再び上海に舞戻つて來るとは金輪際ないのだから、この眞空地帯を埋めることは、結局日本の仕事となるのだ。  
大東亞戰進行の過程において、各地で今後起るべき事態が、先づ上海で起つたのだ。大東亞戰の戦争段階は、上海に關する限り、半日で終つてしまつたのだから、上海では即日戰後經營の問題が出て來たわけなのである。

問題は如何にも上海なる一局地の問題だが、解決は他の地域との關連なくしては望まれない。上海今後の問題の内に、大東亞全體の問題も、おのづから含まれてゐる得ないのである。したがつて上海問題を如何に處理し得るかといふことは、日本民族の大東亞經營能力の有無乃至大小を測定すべき尺度ともならざるを得ないのである

その意味で自分等の陣中ニュースもガリ版刷りの貧弱なものながらそこに大きな意義と使命を持つてゐるものと確信してゐます。  
滿洲七六二部隊中隊  
安達三郎  
ハワイ海戦の大勝、マレー作戦の完遂等皇軍の驚異的戰果は共榮國の確立を不動のものたらしめ、われわれはもとより統後の慶び、安堵感謝發奮の程が拜祭いたされまふ。北門守護のわれわれも第一次慶祝日たる十八日御酒を頂戴して慶祝し、戦争完遂の誓を新にいたしました。大東亞戰爭の性格が資源作戦から國防安全確保への作戦を包含し來り、北門鎮護のわれわれも、前進の光榮を拜する日は一死奉公、君國に殉ずべく待期してゐます。

# 收容所脱出に成功

## 直ちに前線報道任務に挺身

### マニラ支局長 牧 内 正 男

三月五日朝突如たる空襲警報に帝都を中心とする關東一帯は、大東亞戰爭勃發以來初めて「戦争のスリル」をまさしくと身近に感じた。アメリカの西南太平洋における最大基地比島にあつて偶々日米戦争を生々しく體驗した自分の幻想は「太平洋の眞珠」——比島に展開された戦況に飛ぶ。

顧るに昨年六月初旬マニラに赴任した時は既に太平洋を挟む日米兩國の關係は悪化の一路を辿つてゐた。比島の國防強化はアメリカの支援下に急ピッチをもつて進められ、C・E・A(非常時管理會議)指導下に官民一體の防空演習(燈火管制は多少泥纏的な傾向もあつたが頻々と舉行され、米比一體となつた對日戦争準備は着々整へられてゐた。

殊に燈火管制の夜を利用して米國軍用船よりマニラに陸揚げされた武器、彈藥、航空機の数は相當な額に上つてゐて、街に氾濫するアメリカ兵の群と相俟つて比島首都は「軍都」としての相貌を日に日に濃化し「日米戦不可避」といふ考へ方は次第に壓倒的となつて來たのである。

來栖大使のマニラ經由渡米、日本政變必至説などは米比當局にとつて「日本未だ起らず」といふ安易さを一應は與へたやうではあつたが、新聞さてはアメリカ映畫、特にニュース映畫を通じての反日宣傳は、植民地的性格を多分に持つ比島民衆をして不知不識抗日気分を驅り立てるに相當役立つたものである。

アメリカの「忠實な番犬」を以て任ずる比島政府の邦人壓迫は、資産階級令實施のごときアメリカ政府の反日的經濟手段にあきたらず種々苛酷な方法となつて現れた。例へば海岸に立つて沖を見ておたり、魚釣りをしてゐる邦人を逮捕するがごとく非常識極まる彼等の態度に在留邦人は憤慨したものだ。比島漁獲高の七割以上を占め食膳を賑はす沖繩漁夫のごときは種々難癖をつけられて放逐される始末、その他比島産業に陰然たる勢力を占める邦人企業も同様の運命を免れ得なかつた。

かくなる上は、いつまでもかかる不明朗な事態の下に置かれるより、一戦を交えて比島をアメリカの覇權から脱却させることは最早や宿命的なものと觀念した。在留邦人は祖國が横暴なるアメリカの頭上に斷乎一撃を加へるやうに衷心望むに至つたのである。

十一月下旬本社よりの指令によつて藤原同僚を最後の引揚船淺間丸に見送り「鬼界ヶ島の俊寛」のやうな悲壯なる氣持を抱いて居残つた自分は、殘留現地支局長と共に重要書類の焼却、事務所の整理を行ひ、他方日本人會と連絡して日米開戦の萬一の場合の籠城の對策を練つた。

十二月三日、大毎特派員には引揚げ命令來り、續いて朝日特派員のところへは「隨機に處置をとれ」との本社よりの訓令が届くに至り一應「最後迄」の肚を極めた自分

も戦争勃發後打電はもとより、支局事務繼續不可能を理由とする熱心な勸説に動かされ、本社の諒解を得て他社特派員と協調で暫く佛印に逃避を決定するに至つた。

自分には「運命の日」十二月八日は來た。皮肉にも此の日こそ佛印行のため乗船を豫定したフランソワ船「ヨフル」がマニラ出帆佛印に抜錨の日であつた。我が荒蕪の眞珠灣攻撃」の報に本社八日打電同盟ニュースの發行を終り、一同祖國の萬歳を唱へた後、武裝いかめしい米兵によつて先づビビッド刑務所に送られ、更に邦人收容所に移され、その後二十五日に互る監禁生活は釋放後打電した拙い手記によつて御諒察願ひたい。

收容所脱出後皇軍先遣部隊と連絡して第一報を打つた感激、支局事務所再建工作にまつはるエピソード、我が從軍特派員諸君との握手等々、一月二日以後の諸事は一いつ今となつても、いとも鮮

に頭の中に走馬燈の如く浮ぶ。生死不明を傳へられながらも辛くも死地を脱して、今日尚依然「報道報國」の道にいそしみ得る身は、天佑神助に敬虔なる感謝を捧げると共に、未だ敵地にあつて消息不明の同僚特派員諸君並にその御家族に對し満腔の同情の念を禁じ得ない。

社命により本社との報道聯絡に一寸飛び歸つた自分は、大東亞戦争の大舞臺に一端役ながらも登場し得る光榮を同僚諸君と共に分かたい。殊に未だ前線にあつて「明日の命も判らぬ」血の滲むやうな辛勞に對しては心から敬意を表する。

幸にして、比島現地にある我が同盟社員並に關係徴用員諸君は健在で「大同盟」の名を辱しめぬやう立派に活躍してゐることを祖國の先輩同僚にお傳へしてこの報告の筆を擱く次第である。(三月五日日本社においでしるす)

## 鯉江正樹氏シ島で名譽の戦死

(シンガポール島永井同盟特派員二月十三日發) 同盟通信社聯絡員鯉江正樹氏(三十七歳愛知縣知多郡常滑町)は十二日午前一時三十分ブキテマ西南方〇〇高地の激戦で敵砲弾を右足に受け重傷を負ひ同八時四十五分戦死した。また同時刻朝日新聞社連絡員岩崎俊一氏は右肩に砲弾破片を受け重傷後戦死した。(二月十三日東亞廿九號)

シンガポール 二月十五日發  
〇〇部隊長  
假の墓標に乾パンと紫の花

二月十五日發  
シンガポール 〇〇部隊長

を問ふ。相變らず悠々たる勇將の面影はいまのわれわれには特に頼もしい。一〇〇高地の敵は今どんく後退してゐます」と上半身裸

に頭の中に走馬燈の如く浮ぶ。生死不明を傳へられながらも辛くも死地を脱して、今日尚依然「報道報國」の道にいそしみ得る身は、天佑神助に敬虔なる感謝を捧げると共に、未だ敵地にあつて消息不明の同僚特派員諸君並にその御家族に對し満腔の同情の念を禁じ得ない。

社命により本社との報道聯絡に一寸飛び歸つた自分は、大東亞戦争の大舞臺に一端役ながらも登場し得る光榮を同僚諸君と共に分かたい。殊に未だ前線にあつて「明日の命も判らぬ」血の滲むやうな辛勞に對しては心から敬意を表する。

幸にして、比島現地にある我が同盟社員並に關係徴用員諸君は健在で「大同盟」の名を辱しめぬやう立派に活躍してゐることを祖國の先輩同僚にお傳へしてこの報告の筆を擱く次第である。(三月五日日本社においでしるす)



向つて右永井暗特派員、左端津吉英男特派員、中央朝日新聞特派員

奇蹟のやうな氣がする。敵は昨夜十一時から今朝七時半まで約九時間近くもぶつ續けに數千發の彈丸を狭い場所集中したのだ。あたりのゴム樹の枝は無残に折られ、犠牲者の死骸が散在し、鬼神も眼をそむける情景である。

その中に暫し茫然と佇んでゐると「おい、鯉江君が重傷だぞ」と誰かが呼びに來た。駆けつけてみると同行の本社連絡員鯉江正樹君は血塗れの壕の横に右足を撃ち砕かれて同僚に介抱されてゐる。しづかりしろ」と聲を勵まして元氣づけたが出血多く殆んど無意識に陥り、顔には既に死相さへ浮んでゐる。も早や施す術もない。午前八時半鯉江君は靜かに瞑目した。去る二十七日クルアン出發以來約十日、行をともしして來た同僚の一人はこのやうにして死んだ。て

うどの頃朝日新聞連絡員岩崎俊一君も二、三町離れた地點で胸部に砲弾の破片を受けて既にこつてゐるのが発見された。

この多忙な戦況下に遺骨遺品を整理してわれわれは戰場に墓穴を掘つた。二つの屍體を納め、朝日と同盟の社旗でその上を蔽ひ、靜かに土をかけた。腥い風が吹き過ぎる。假りの墓標を立て有り合せた線香を焚き、乾パンと名も知らぬ紫の花を供へてみんまで心から冥福を祈つた。ゴムの木の葉末がそよぐ。それは蕭々として悲歌のごとくに思はれた。

午前十一時われわれは二人の遺骨を後方に届け、且つこのニュースを傳へるために一旦後方に引揚げることにし、彼私の砲弾の飛び交ふ下を遺骨を先頭に捧げつつ名残り惜しい氣持ちで前線を離れた



大陸へ

田村二郎(編輯)
鹽谷邦夫(同)
堀内正教(通信)
津川勝美(同)
以上南支總局臨時在勤へ

大陸より

通信へ 齋藤 烈(南支)
神坂鶴太(編輯)
經濟局内經濟部海運主任へ

國內

編輯へ 古澤 孝(調査)
藤田一夫(經濟)
高雄へ 吉村榮吉(關門)
編輯へ 兒島又喜(熊本)
編輯へ 福島隆三(神戸)
編輯へ 伊達由夫(横濱)
静岡支局主任へ
山本藤次郎(京都)
京都支局通信主任へ

青年團彙報

大坂支社

青年團の活動

一、濱寺「海の家」
昨年夏期七、八月濱寺に脱衣場を豫約、團員の海水浴による身體鍛鍊に當つた。必ず監督者を派遣して訓育方面にも遺漏なきを期したが、利用者延人員は三百十五人に達した。

一、ハイキング

十一月三日明治節にハイキングを舉行、六甲山嶺を極め大いに浩然の氣を養つた。
一、勤務奉仕
十二月十七日および二十一日の

編輯へ 高橋 環(總務)
臺北へ 北里 太郎(通信)
静岡へ 大林 秀(通信)
山崎早市(經濟) 菊地 猛(中支)
河野寛治(經濟) 山下安吉(中支)
白砂妙子(經濟) 丹羽 正(中支)
河村 清(關門) 荻野幸治郎(中支)
木湯武雄(同) 中原 鴻(中支)
福田 稔(中支) 尾崎竹四郎(青森)
藏原秋利(中支) 内藤勝治(編輯)
永井眞雪(中支) 祓川親眞(編輯)
若杉ほつみ(中支) 陳存福(花蓮港)
田中清市(編輯) 高橋泰二(調査)
細谷藤四郎(經濟) 東海 清(大阪)
樽谷徳太郎(經濟)
以上社員トス
三井利男(經濟) 谷岡勝(名古屋)
佐藤佐知子(神戸)
以上準社員トス
Mario Planet R. (同)
天方恒次郎(通信) 日比文哉(通信)
中島 覺(通信) 齋藤金藏(函館)
古屋英男(通信) 水野靖彦(新潟)
以上囑託トス

新入社

曾我部元齊(札幌) 鈴木 勝(通信)

兩日に亘り支社防護團に協力するため勤務奉仕團を編成、緊急時備付用の支社分室土糞詰込作業にシヤベルを振り、土糞をかきいで貴い汗を流した。
一、春期鍛鍊準備
春暖到来と共に勤務の傍ら手軽に心身の鍛鍊をなし得るやう支社附近に庭球および排球のコートを借りることとし用具を購入した。

名古屋支社の

生花講習會

名古屋支社では女子青年團の精神修養のため生花講習會を開催してゐる。流儀は嵯峨御流で受講者總數十九名、毎週木土の二日(各人週一回)熱心に稽古にはげんでゐる。去る二月七日開講したばかりであるが、紫標別床飾、諸



坂井義房(小樽) 川元文夫(通信)
足立 彰(調査) 澤底政雄(通信)
福原信義(廣島) 番野直治(通信)
川上大三郎(福岡) 加藤信夫(神戸)
金井俊英(長野) 齋藤美子(經濟)
魚住武弘(神戸) 太田登美子(經濟)
二井矢定(廣島) 川崎壽美男(福岡)
湯淺富夫(編輯) 石川吉正(通信)
原科幸太郎(静岡) 馬上保丸(通信)
以上社員試用
林 六郎(編輯) 廣澤由里子(大阪)
高橋幸子(經濟) 床本里江(大阪)
鈴木鈴子(經濟) 黒田サキ子(横濱)
錦戸智子(福岡) 高原重人(關門)
林 政江(總務) 洪孔焯(臺北)
以上準社員試用

休職

栗林 農夫(編輯)

退社

一色茂平(岡山) 平山松盛(京城)
武内達雄(通信) 井原武雄(福岡)
西本鎮太郎(岡山) 葛野辰藏(通信)
京林好子(京都) 森田一弘(中支)
古川長作(總務) 大坪日出子(通信)
仲 喜代(經濟) 渡邊 誠(通信)
古田冬至子(京都) 水野靖彦(新潟)

Table with columns for birth (△出生), death (△死亡), and other (△其他) events, listing names and dates.

互助會報告

【二月分】

Table with columns for mutual aid reports (△入營・應召, △見舞, △盜難), listing names and details of events.

Table with columns for subscription information (△退社, △正誤), listing names and amounts.